

足立の3歳児死亡「防げた」

児童相談所と警察の連携提言

虐待防止取り組むNPO代表

足立区で平成25年に当時3歳の男児がウサギ用ケージに監禁され死亡した事件などを受け、児童虐待防止に取り組むNPO法人「シンクキッズ」(港区、後藤啓二代表)は4日、児童相談所と警察が持つシステムを有効活用すれば、虐待死は防げたとする緊急提言を都と警視庁に行った。虐待リスクの高い家庭について、両機関の情報共有を進めるべきだと指摘している。



子供の虐待防止策について都と警視庁に提言を行い、記者会見するNPO法人「シンクキッズ」の後藤啓二代表。4日、都庁(伊藤鉄平撮影)

同団体が問題視したの
は、足立区のケースや昨年1月、葛飾区で当時2歳の女児が父親に暴行され死亡

した事件など。
後藤代表は提言で、全国
の警察がDV(家庭内暴
力)やストーカー対策に活

用する「110番通報登録
制度」を有効に使えば、
「葛飾区の事件は防げた可
能性がある」と指摘。同制

度は110番通報があった
際、通報場所や電話番号か
ら、事前に被害者から受け
ていた相談内容などを瞬時
に表示できるシステム。こ
れを管理するデータベース
に児相の持つ虐待に関する
情報も事前登録しておけ
ば、「現場に赴く警察官
が、虐待リスクの高い家庭
と分かった上で行動でき
る」(後藤代表)という。
葛飾区のケースでは、女
児が死亡する5日前、「子
供の泣き叫ぶ声がある」と
通報があり、警察官が自宅
を訪れたが、父親らが「夫
婦げんか」と説明したた
め、後に約40カ所のあざが
見つかる女児の身体を詳し
く調べることなく現場を離
れていた。

また、足立区の事件につ
いては、児相が被害のあっ
た家庭を11回訪問したが、
実際に男児に会えたのは2
回だけだったことを問題
視。後藤氏は「児相が人員
不足なのは分かるが、危険
度の高い家庭については、
代わりに警察に行ってくれ
るよう頼める制度があれ
ば、子供の安否確認や親へ
の指導が適切に行えるはず
だ」と指摘した。

提言は「全国犯罪被害者
の会」(松村恒夫代表)と
連名で提出。これまでに、
子供の虐待死ゼロを目指す
法改正を求める署名約2万
7400人分を集め、政府
に提出するなどの活動をし
ている。
警察庁OBで、弁護士で
もある後藤代表は提言後に
記者会見し、「関係機関が
連携すれば、救えるはずの
命だった。こうした事件を
2度と繰り返してはならな
い」と述べた。